

第3学年道徳学習指導案

令和5年9月28日(木) 5校時
指導者 中村 亜紀

1 主題名 「世界平和と人類愛」(資料名「命のトランジットビザ」日本文教出版)

2 ねらい

- 国際的視野に立ち、人類愛について理解を深め、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を養う。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、中学校学習指導要領、特別の教科「道徳」の内容「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「18 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」をねらいとしている。

今日、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが求められる。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、自国のみでの平和は成立しない。しかし、世界に目を向けると、現在もなお国同士が争っていたり、内戦が起きていたりする国もあるなど、同じ人間同士が傷つけあう、決して世界平和とは言い難い状況である。このような世界情勢の中で、日本は戦争がないから関係ないと考えのではなく、どの国籍・民族であっても同じ人間として尊重し合い、平和な世界を作るために自分達は何ができるのかを考える意欲を高めることが求められる。

したがって、将来の日本を担う中学生には、今後ますますグローバルな相互依存関係の中で生きていかなければならないので、広く世界情勢に目を向け、国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要となる。さらに、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献するという理想を抱き、その理想の実現に貢献しようとする態度を養うことは大変意義のあることである。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、争いごとを好まず、互いの良いところを受け入れながら生活することができている。今年の6月には、社会科で第二次世界大戦について、道徳では、6月23日の「沖縄慰霊の日」の前日に沖縄戦での女子学徒達を教材に、7月には「エリカ-奇跡のいのち-」を教材に、「世界平和」や「生命の尊さ」について学習している。振り返りの記述からは、「自分達が次の世代に伝えていきたい」、「自分達にできることは何か考えてみたい」、「どうしたらその当時の人々を救うことができたのか」など更に深く考えていこうとする記述が見られた。その一方で、「可哀想」、「戦争はしてはいけないと思う」など、どこか他人事でただの感想にとどまる記述も見られ、自分達が平和な世界を作っていく主体であるという意識はあまり高くない。

道徳の時間においては、導入から興味をもって取り組み、自分から意見を発表するようになった生徒も増え、特にグループ活動では、積極的に意見を出し合える雰囲気が出てきている。また、級友が出した意見に対して「~の意見に対して・・・」や「この意見についてもっと聞いてみたい」など、少しずつではあるが生徒同士で対話を進めていこうとする発言も見られるようになってきた。しかし、自分自身に関連させて、ねらいとする価値について考えを深めることについては、振り返りの記述を見ても少なく、道徳の実践意欲と態度を養うまでに至っていないと考えられる。

(3) 資料について

そこで、国際的視野に立ち、人類愛について理解を深め、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を養うために、「命のトランジットビザ」(日本文教出版)という教材を用いる。本教材は、第二次世界大戦当時、外交官としてリトアニアに赴任していた主人公・杉原千畝が、ナチスから逃れるユダヤ人のためにビザを必死に書き続けた実話である。杉原千畝は、ビザを発給してはいけないという日本国からの命令を受けながらも、目の前にいるユダヤ人の命を守るために自分の考えでビザを発給する。身の危険を冒してまでもユダヤ人を救おうと決断するまでの杉原千畝の心の動きを追うことで、人種を越えた「人間愛」について理解を深めることができる内容である。また、外交官としての立場と命の大切さとの間で苦悩する杉原千畝の心の動きを通して、平和な世界と実現するために大切なことは何かについて考えさせることで、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を養うことができると考える。

(4) 指導について

導入の段階においては、今年6月、7月に社会科や道徳で学習した第二次世界大戦のことを思い出させる。その時に学習したユダヤ人迫害を救った日本人がいたことに触れ、映画「杉原千畝」の予告動画を見せ、その中の台詞をもとに、杉原千畝がどのような世界に変えたいと思っていたのかを考えさせ、生徒達から出てきた意見の中の言葉をもとにテーマを示し、ねらいとする価値の意識付けを行うようにする。

展開前段では、まず、歴史的背景をおさえながら、ビザを発給する場合としない場合では、ユダヤ人、日本国、杉原千畝とその家族にどのような影響が出るのかを全員で確認していく。それぞれの立場での良い面と悪い面を構造的に示すことで、杉原千畝が苦悩と葛藤の末に、ビザを発給する決断をしたことを視覚的に分かりやすくする。その後で、杉原千畝がビザを発給したことをどう思うかを、客観的な発問「当時の状況の中、外交官である杉原千畝が命令に背いてまでビザを発給したことに賛成ですか？反対ですか？」と主体的な発問「自分が杉原千畝と同じ外交官だったら、ビザを発給しますか？しませんか？」の2つで考えさせていく。この時に、思考ツールとして座標軸を用い、自分の考えがどの位置にあるのかを明確にし、理由をロイロノートで共有させ、自分とは違う考えの意見を聞いたり、話し合ったりさせる。そうすることで、杉原千畝がビザを発給するまでの心の動きを多面的・多角的に深く考えさせることができる。と考える。

展開後段では、寝食を忘れてビザを書き続け、リトアニアを発つ直前まで汽車の窓からビザを与え続けた杉原千畝に、どのような思いと決意があったのかを考えさせることで、途中でやめてもいいのにやめなかったことはどのような状況でも、どの国の人々も同じ人間として尊重し合う人類愛であること、世界平和のために勇気を出して自分にできる最善を尽くそうとした強い意志があったことに気付かせたい。

終末では、本時の授業を通して考えたことや学んだことを書かせ、挙手による発表だけでなく、新しい発見や気づき、自分の考えを深めたこと、これから大切にしたいことなどを書いている生徒にも意図的指名をして発表させたい。最後に、杉原千畝が発給したビザを持ったユダヤ人を宮崎県宮崎市佐土原出身の外交官・根井三郎が、やはり外務省からの命令に背き、ロシアで日本行きの船に乗せたり、ビザを発給したりしたこと、この根井三郎についての講演を後日開催することを伝え、自分達の郷土宮崎に杉原千畝と縁のある外交官がいたことを知ることで、世界平和や人類愛についてより身近なものとして感じさせて終わりたい。

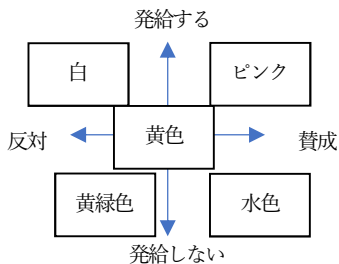
4 事前・事後指導

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会の「夢実現プロジェクト」の時間に、世界平和や人類愛に関係する記事を紹介する。 ○ 朝の会や帰りの会でミニSSTを行い、人間関係作りを行う。 ○ 社会科の授業で、第二次世界大戦の時のユダヤ人迫害などについて触れてもらう。 ○ 学年全クラスで沖縄慰霊の日に合わせた道徳の授業やユダヤ人迫害の物語を扱った教材での道徳の授業を行い、同じ時代に日本はどうだったのか、また、ナチスやユダヤ人迫害について詳しく学習しておく。 ○ 学年の掲示板を使って、道徳で学習したことを紹介する。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級通信を通じて、生徒達が道徳の時間に学習したことや生徒達の思いを紹介する。 ○ 杉原千畝と同じ時代にロシアで外交官をしていた、宮崎県出身の根井三郎についての講演会を開き、自分達の郷土にもユダヤ人を救った偉人がいることに誇りをもたせるとともに、自分達も世界平和のために具体的に何ができるのかを考えさせる機会とする。

5 学習指導過程

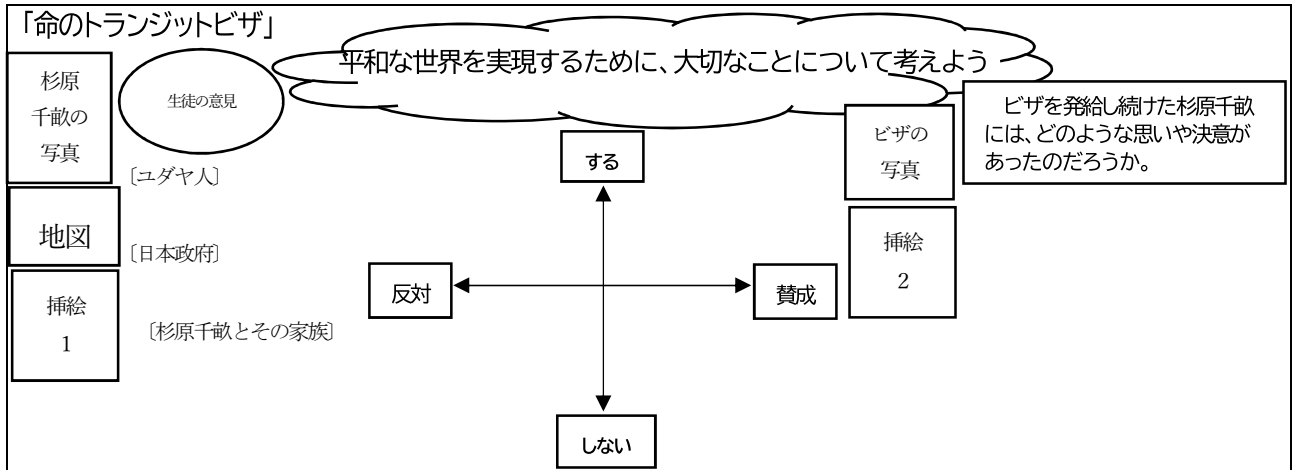
段階	学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 教材の概要を知り、本時の学習への関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6月に学んだ社会科の授業や道徳「エリカ」の授業を思い出し、今日の教材が繋がっていることを知る。 ○ 映画「杉原千畝」の予告動画を見て、杉原千畝がどんな世界に変えたかったのか考えさせ、テーマを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平和な世界を実現するために、大切なことについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和な世界 ・ 戦争のない世界 ・ ユダヤ人が差別されない世界 ・ 人種差別のない世界 ・ 誰もが平等に生きることができる世界 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会での学習や道徳「エリカ」で学んだことを思い出させることで、歴史的背景についての共通理解を図ることができるようにする。 ○ 映画の予告を見ることで、杉原千畝という一人の日本人について学習することを知る。 ○ 予告動画に流れた言葉から杉原千畝が変えたかった世界はどんな世界だったのかを考えさせ、本時のテーマのキーワードを引き出すことで、ねらいとする価値への方向付けを図る。

展	<p>2 教材を読む。</p> <p>3 ビザを発給する場合と発給しない場合で、それぞれの立場の人にどんな影響が出るのか考える。</p> <p>[ユダヤ人]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発給する→命が助かる。収容所に行かなくてよくなる。 ・発給しない→ナチスに捕まり、収容所送りになる。ナチスに殺される。 <p>[日本政府]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発給する→ドイツとの関係が悪くなり、三国同盟が結べない。 ・発給しない→ドイツとの関係がよくなり、三国同盟が結べる。 <p>[杉原千畝と家族]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発給する→外交官でいられない。罰を受ける。身の危険にさらされる。ユダヤ人から感謝される。 ・発給しない→罰を受けないですむ。ユダヤ人から恨まれる。 		<p>○ 歴史的背景とそれぞれが置かれた立場について確認することで、杉原千畝の置かれた状況を知る。また、この後の活動の中で、多面的・多角的に考えを深めることができるようにする。</p>
開	<p>4 杉原千畝がビザを発給したことをどう思うかを、座標軸を用いて客観的な立場と主体的な立場で考え、ロイロノートで理由を共有する。</p> <p>① 当時の日本の状況の中、外交官である杉原千畝が命令に背いてまでビザを発給したことに賛成ですか？反対ですか？</p> <p>② 自分が杉原千畝と同じ外交官だったら、ビザを発給しますか？しませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートに自分の考えの位置の色のカードに理由を書き、全員で共有する。 ・数人で意見を交換する。 ・もっと深めたい考えについて、全員で話し合い、考える。 	<p>【ピンク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ人が理由もなく虐殺されるのはおかしいから。 ・一人でも多くの人を助けたい。 ・自分のことよりも、差別されているユダヤ人のことを優先したい。 ・目の前にある命を助けたい。 ・助けられる命を見放したら、自分が後悔しそうだから。 <p>【水色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や自分の家族が死ぬのは嫌だから自分はできない。 ・杉原千畝がしたことには賛成だけど、自分だったら、勇気が出ない。 ・命を助けたいが、家族を犠牲にはできない。 ・日本を裏切ることはできない。 <p>【黄緑色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の命令に背くし、ドイツとどうなるか分からない。 ・自分や家族の命の方が大切だから。 ・ユダヤ人を助けたいが、当時の状況で発給したら、自分、家族、日本も危険になるから ・自分の地位を失いたくない。 	<p>○ 座標軸を使って2つの発問について自分の考えがどの位置にあるのかを明確にさせる。</p> <p>○ ロイロノートを用いてクラス全員の考えを共有し、様々な意見を出させ、話し合わせることで、杉原千畝の葛藤やビザを書き続ける上で何の価値観を大事に行動したかを多面的・多角的に考えさせる。</p>



	<p>5 ビザを発給し続けた杉原千畝には、どのような思いや決意があったのかを考える。</p>	<p>【白】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発給した行動には反対だが、いざそこにいたら発給してしまうかも。 <p>【黄色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと迷って決められない。 ・ユダヤ人は助けたいが、家族に迷惑をかけると思うと悩む ・ビザを発給したいけれど、色々なことを考えると悩んで決められない。 <ul style="list-style-type: none"> ・目の前のユダヤ人を今救うことが、きっと将来、平和な世界につながるはずだ。 ・自分はどんな状況でも、人として正しいことをしたい。 ・どんな時でも目の前で苦しんでいる人を見捨てたくない。 ・1枚書くのもたくさん書くのも一緒だから、書けるだけ書いてユダヤ人を救おう。 ・自分達も危険かもしれないが、それでもユダヤ人がこんな目に合うのはおかしい。自分は何があってもユダヤ人を救おう。 ・一度、発給すると決めたからには、最後までやりきろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビザを発給し続けた杉原千畝の思いや決意を考えることで、どのような状況でも、勇気を出して自分にできる最善を付くそうとした強い意志があったこと、その思いが平和な世界に貢献することにつながることに気付くことができるようにする。
<p>終末</p>	<p>6 今日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の授業を通して考えたことや学んだことを書いて発表し、級友の振り返りも知る。 ○ 杉原千畝のビザを持ったユダヤ人を宮崎県宮崎市佐土原出身の外交官、根井三郎が、やはり外務省からの命令に背き、ロシアで日本行きの船へ乗せたり、ビザを発行したりしたことを伝える。そして、この根井三郎についての講演会を開催することを伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えたことを整理できるように個人で振り返る時間を確保する。 ○ 級友の学びを共有するために振り返りを数名発表させる。 ○ 自分達の郷土宮崎に、「命のビザ」を繋いで命を救った外交官がいることを知ることで、世界平和や人類愛についてより身近なものとして感じさせて終わる。

6 板書計画



7 評価規準

杉原千畝の生き方、級友の意見や話し合いから、平和な世界を実現するために大切なことは何かについて、新しい発見や気づき、自分の考えを深めたこと、これから自分が何を大切にしていこうとするかの思いを深めている。(ワークシート)